

2020年9月23日



一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

2020年8月 マンスリーレポート

集計企業数 55 社

①売上高・前年同月比

	全店			既存店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総額	65,153,496 万円	100.0%	106.8% (106.2%)	63,195,876 万円	105.3% (105.2%)
食料品	56,884,679 万円	87.3% (86.2%)	108.9% (107.5%)	55,282,816 万円	107.3% (106.2%)
農産	9,323,742 万円	14.3% (13.1%)	119.0% (114.3%)	9,062,927 万円	117.2% (112.8%)
水産	5,151,697 万円	7.9% (8.5%)	110.3% (111.9%)	5,009,728 万円	108.5% (110.5%)
畜産	6,985,669 万円	10.7% (11.0%)	112.1% (111.3%)	6,781,930 万円	110.3% (109.8%)
惣菜	6,677,543 万円	10.2% (9.8%)	101.1% (102.0%)	6,464,196 万円	99.3% (100.4%)
日配食品	12,778,135 万円	19.6% (19.3%)	108.7% (105.7%)	12,424,525 万円	107.1% (104.5%)
加工食品	15,967,893 万円	24.5% (24.5%)	105.5% (105.0%)	15,539,511 万円	104.1% (103.9%)
生活関連	3,966,705 万円	6.1% (6.4%)	105.0% (109.5%)	3,868,078 万円	104.0% (109.2%)
衣料品	1,183,723 万円	1.8% (2.2%)	79.4% (86.7%)	1,138,479 万円	79.8% (88.0%)
その他	3,118,390 万円	4.8% (5.2%)	88.1% (93.0%)	2,906,503 万円	87.3% (93.2%)

② 数値

全店総売上高	65,153,496 万円	店舗数	4,839 店舗
総売場面積	9,415,187.2 m ²	総従業員数	264,060 人
店舗平均月商	13,464.2 万円	平均客単価 (前年同月比)	2,070.6円 (107.7%)
月間m ² 売上(前月)	6.9 万円 (6.5万円)	平均売場面積	1,945.7 m ²
月間坪売上(前月)	22.9 万円 (21.6万円)	パート比率(前月)	77.3% (76.8%)

注) 総従業員数・・・パート・アルバイト数は、8時間換算しています

《 全体概況 》

- ・ 8月の天候について、気温は全国的に高温で、1946年の統計開始以来、8月として東日本では1位、西日本では1位タイの高温となり、降水量は東日本の太平洋側で1位、西日本の太平洋側で1位タイの少雨であり、晴れの日が多かった。いっぽう沖縄・奄美においては降水量がかなり多かった
- ・ 生鮮物の相場状況について、農産物は先月の曇天多雨からの生育不良による入荷減で野菜果物共に高騰した。水産物は、前月並みの入荷量だが卸売価格は前年同月に比べて弱含みであった。畜産物は、牛肉で和牛、国産牛の相場は低調であった。豚肉は出荷頭数減と堅調な内需により前年を大きく上回った。鶏肉は引き続き高値であった
- ・ 前年に比べ日曜日と月曜日が1回多く、木曜日と金曜日が1回少ない曜日回りであった
- ・ 新型コロナウイルス感染症新規感染者数は月初に第二波ピークを迎えた。そのため、夏休みの行楽や帰省が大幅に自粛された
- ・ 前年に比べ、客単価（買上点数・1品単価）が上がり、客数が下がる傾向が続いている

《 商品動向 》

○農産

- ・ 土物や葉茎菜類などは相場高もあり動きもよく好調であった
- ・ 猛暑もありキュウリやトマトなどのサラダ野菜が好調であった
- ・ 国内果実では、ブドウ・スイカが相場高もあり好調、モモが品薄から不調であった
- ・ 輸入果実ではバナナが好調であった

○水産

- ・ 二の丑や猛暑、中国産の安値によりウナギが好調であった
- ・ エビや塩干が好調であった
- ・ サンマが不漁で不調であった

○畜産

- ・ 豚肉、鶏肉、挽肉のほか、ハムソーセージなどの加工品が好調であった
- ・ 牛肉は一部不調のコメントがみられるものの、焼肉用やステーキ用を中心に好調であった

○惣菜

- ・ 猛暑もあり冷やし中華や涼味麺セットが好調であった
- ・ 天ぷらが好調であった
- ・ ウナギ蒲焼やウナギ米飯が好調であった

○日配食品、加工食品

- ・ 猛暑によりアイスクリーム、乾麺や麺つゆ、涼味麺や豆腐、納豆、練り製品、ペットボトルやブリックパック飲料、アイスが好調であった。
- ・ 野菜の相場高により、漬物や冷凍野菜が好調であった
- ・ 進物や手土産菓子が不振であった
- ・ ビールやビール類は好不調が分かれたものの、チューハイやつまみ菓子は家飲み需要で好調であった

○お盆の動向について

- ・ コロナ禍によりお盆期間中の帰省移動、親族間の往来が少なかったため、都市部では流出が少なく売上は好調となり、地方では流入が少なく不調となった
- ・ 寿司やオードブルなどの販売計画は大容量の数量を控え2人前や単品などを増やし、普段使いの切身や塩干、豚肉や鶏肉に重点をおいた展開をし好調であったとのコメントがみられた
- ・ 切り花や手土産などの墓参り帰省用品、落雁が不調であった